

学会ニュースNo.116 トピックス

- ・2016年度(第71回)総会・研究発表大会のご案内
- ・2016年度立正地理学会評議員会のお知らせ
- ・秋季例会(鹿児島)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第1報)
- ・立正大学地理学教室創立90周年記念講演会報告1
- ・立正大学地理学教室創立90周年記念講演会報告2
- ・2015年度第112回臨地研究会(神奈川県秦野市)報告
- ・立正地理学会研究委員会の募集(新規) ・地理学教室だより
- ・今年度卒業予定の学生会員の皆様へ ・会費納入のお願い

会告

○2016年度(第71回)総会・研究発表大会のご案内

2016年度(第71回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2016年6月4日(土)9:00(予定)より
2. 会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A203 教室(予定)
(当日、校内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について
次号の学会ニュースに総会委任状を同封します。
4. 昼食
学生食堂(サハー・パルロットなど)が営業しております。
5. 懇親会
 - 1)会場:立正大学熊谷校舎学生食堂(予定)
 - 2)会費:一般 4,000 円・学生 2,000 円(予定)
 - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 研究発表について
 - 1)申し込み
発表希望者は、3頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2016年4月17日(日)までに集会委員会宛に、郵送またはメールでお申し込みください。メールでお申し込みの際は、申込用紙と同一の内容を記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。
 - 2)形式
口頭発表とポスター発表があります。いずれかを選択してください。

●口頭発表

発表時間 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分です。

会場には、パソコンと液晶プロジェクターが用意してあります。プレゼンテーションソフトは Windows 版 PowerPoint2013 です。発表用のファイルは、Windows で読み込めるフォーマットの USB メモリーに保存し、当日会場へご持参ください。なお、スライドや OHP の利用をご希望の方は集会委員会まで予めご相談ください。当日の申し出では、準備できない場合があります。

●ポスター発表

コアタイムとは別に 1 分程度の口頭による内容紹介を行っていただきます。

ポスターのサイズは A0 縦 (短辺 841 mm, 長辺 1189 mm) サイズまでです。

3) 要旨

発表者は要旨を必ずご提出ください。要旨は『地域研究』に掲載いたします。執筆要領は大会当日に編集委員会の受付で配付いたします。大会後、期日までにご提出ください。なお、発表要旨集は作成しません。

4) 配付資料

配付資料が必要な場合は、発表者が各自に必要な枚数をご用意ください。配付資料のコピー・印刷等は受け付けておりません。学内の有料のコピー機をご案内いたします。

7. 地理写真の募集

1) 申し込み

希望者は、3 頁の申込用紙に所定事項を記入の上、2016 年 4 月 17 日(日)までに集会委員会宛に、郵送またはメールでお申し込みください。メールでお申し込みの際は、申込用紙と同一の内容を記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。

2) 様式

地理写真のサイズは、A1 縦(短辺 594 mm, 長辺 841 mm)サイズまでです。大会当日に所定の場所へ展示し、大会終了後は各自でお持ち帰りください。写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。写真には内容・場所・撮影日時などのキャプションを付記願います。

8. 研究発表大会プログラム・会場案内について

次号学会ニュース(2016 年 5 月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)に掲載いたします。

9. 展示について

地理関係出版社の出版案内や図書販売が行われる予定です。

10. 災害等により開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって大会の開催が困難な場合は、立正地理学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)または立正大学地理学科ホームページ(<http://rissho-map.jp/>)でお知らせいたします。

以上

2016年3月

2016 年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
・発表題目:
・発表形式(↓いずれかを○でかこんで下さい) 口頭発表 ・ ポスター発表
・連絡先 氏 名: 住 所:〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

2016 年度 地理写真申込用紙

・氏名(所属)
・テーマ:
・連絡先 氏 名: 住 所:〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

※申込用紙をコピーしてご利用いただくか、立正地理学会ホームページからファイルをダウンロードしてください。

○2016 年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2016 年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2016 年 6 月 3 日(金)18:00 より
 2. 場所:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A610 会議室(予定)
 3. 議題:1. 2015 年度事業報告の件
2. 2015 年度決算報告の件
3. 2016 年度事業計画案の件
4. 2016 年度予算案の件
5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員会までお知らせ下さい。)
- 詳細については、次号学会ニュースにて評議員の方に同封するご案内をご覧ください。

○秋季例会(鹿児島)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第 1 報)

11 月 26 日(土)に秋季例会・講演会を鹿児島大学において、同 27 日(日)に鹿児島市周辺で開催予定です。詳細は第 2 報でお知らせいたします。

○立正大学地理学教室創立 90 周年記念講演会報告 1

2015 年 10 月 27 日(火)、立正大学地理学教室創立 90 周年記念事業の一環として、立正地理学会との共催による講演会を実施した。講演者は、(一財)日本デジタル道路地図協会・前国土地理院長の稲葉和雄氏、司会・進行は立正大学地理学教室の小松陽介会員、会場は立正大学熊谷キャンパスの 1 号館 1101 教室であった。

「2 万 5 千分 1 地形図整備完了と地理空間情報の活用」と題した講演では、稲葉氏から地形図の整備の歴史やその方法について具体的な事例についての紹介があった。さらに、地理空間情報の整備と実生活での利用について説明があった。

講演には、地理学を学ぶ多くの学生が参加し、熱心にメモを取りながら聞き入る様子が見られた。後半では、小松会員の司会・進行によって、稲葉氏の学生時代のエピソードや地理学科で学んだことを活用できる進路を志す学生へのアドバイスをお聞きすることができた。目の前にある課題に真摯に取り組むことで将来の進路が見えてくること、疑問に思ったことを突き詰めて考えることなど、学生にとって励みとなるようなアドバイスを頂戴することもできた。

今回の講演では、実務に携わられている方の貴重な経験をお聞きする機会を得ることができた。ここに記してお礼申し上げる。

(集会委員 松尾忠直)

○立正大学地理学教室創立 90 周年記念講演会報告 2

2015年11月3日(火)、立正大学地理学教室創立90周年記念講演会を、久留米大学名誉教授・文学部情報社会学科特任教授、日本都市学会会長でもある堂前亮平元立正地理学会会長をお招きして行った。会場の東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷には、92名の参加者があった。

「立正地理」から学んだこととその継承」という題の講演では、立正大学に地理学教室が創立されてから今日までの歩みと、その中で受け継がれているフィールドワークを重視する立正地理の伝統について語られた。さらに、堂前先生が取り組んでいる、立正地理の伝統を社会へ還元する試みについてご紹介された。田中啓爾先生という偉大な存在を再認識し、これからの地理学の未来を担う私たちにとって何ができるのかを改めて考える有意義な機会になった。

堂前先生が取り組んでおられる久留米大学情報社会学科でのフィールドワークについては、地理学への興味を持ってもらうための入門としてフィールドワークの効果を現地の写真を用いながらご説明していただいた。このフィールドワークは立正大学地理学科の1年生を対象に行われる地理基礎巡検と通じるものがあり、立正地理の伝統を受け継ぎつつ、興味や関心を持ってもらえるような工夫がなされていると感じた。

講演で提示された資料は、これまでに堂前先生が立正大学地理学教室で学ばれてきたことと、学ばれたことをもとにどのように地理教育を実践されているのかをまとめられた貴重なものであった。立正地理を後世に受け継いでいくためにも、これからは担う私たちがより一層学ばなければならないことも再認識させられた。大変お忙しい中、講演の準備をいただいた堂前先生には、記して御礼を申し上げたい。

(集会委員 小林瑞輝)

○2015年度第112回臨地研究会(神奈川県秦野市)報告

2015年11月22日(日)、大塚昌利名誉会員、小田巻滋会員、谷口智雅会員、戸田真夏会員の案内により、第112回臨地研究会が神奈川県の秦野市において行なわれた。テーマは「秦野における人と水の地誌—今昔」、参加者は29名であった。

当日は、小田急秦野駅前から徒歩で出発し、大秦野、今泉周辺の湧水群へと向かった。途中、駅前の商業地区、緑地整備された水無川、飲料水としても活用されている弘法水、

寿徳寺湧水、今泉のよろずや跡の十字路などを観察しながら、人間の生活と湧水との関係や駅前商業地と周辺集落の商店の機能的特徴についての説明があった。

昼食休憩をとった荒井湧水では、住宅地の公園として整備されているところに真新しい水神が祀られていた。これは、田中啓爾先生の記録にも記述されているものであった。また、御嶽神社、出雲大社近くの竹林において、天保十一年の水神を発見することができ、かつての田中先生による秦野巡検の際に見られたものを再発見できた。

渋沢断層崖への移動中、かつての農村集落の名残や、小商店があったと推定される三叉路に立地しているコンビニエンスストア、近隣の直売所への出荷を目的として多種類の作物が栽培されている畑など、時代の変化に伴う地域の変容を確認することができた。渋沢断層崖では、地形変化と関連した横井戸設置の経緯などについての解説がなされた。さらに、住宅地に残るミカン畑や落花生畑など田中先生の著書による記述を踏まえた解説がなされ、参加者はメモや写真撮影をしながら詳しく学ぶことができた。その後、景観観察を行ないながら小田急渋沢駅へと移動し、駅前において巡検が終了した。

今回の臨地研究会では、神奈川県秦野市を舞台として、人間生活と地域との関わりや、人間生活の変化に伴って地域がどのように変化するのかを学ぶことができた。さらに、かつての田中先生による秦野巡検に参加された大塚名誉会員による当時のエピソードを伺いながら歩く機会が得られたことは貴重な経験であった。臨地研究会の案内と立正地理ならではの丁寧な資料を準備いただいた大塚名誉会員、小田巻会員、谷口会員、戸田会員の4名には記して厚くお礼申し上げる。



秦野市内の農園にて(小田巻滋会員撮影)

(集会委員 郷原裕生)

○立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2016年度の研究委員会を募集します。希望者は下記に示した「立正地理学会研究委員会に関する規程」を熟読の上、規程の5の内容を明記した趣旨書を、島津常任委員長宛(当面の間、常任委員長扱いとします)に郵送(住所等は最終ページに記載してあります)、またはメール(アドレス:geosoc@ris.ac.jp, 件名:立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2016年4月8日(金)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

立正地理学会研究委員会に関する内規

1. 研究委員会の設置:立正地理学会に、研究委員会をおくことができる。
2. 目的:研究委員会は、地理学の研究・教育に資する成果を挙げることを目的とし、その調査・研究に対して、学会より研究費を補助する。
3. 研究委員会の所轄:研究委員会の募集・決定・審査・成果の開示等に関する一連の管轄は、副常任委員長が行う。
4. 研究委員会の募集:副常任委員長は前年度の秋に発行される学会ニュースにおいて、研究委員会の募集、書類の提出期限について告知する。同内容は学会ウェブサイト上でも告知する。なお、書類の提出期限は、当該年度初めとし、前年度末に発行される学会ニュースでも再度募集の告知をする。
5. 研究委員会の設立:研究委員会の設置を希望する会員は、研究委員会の代表者となり、研究テーマ、会員名、研究委員会成立後の追加募集人員、研究期間、研究の目的、予測される成果を明記し、決められた期限までに副常任委員長に提出する。なお、研究委員会は設立時に3名以上で組織する。また、学生会員も代表となることができるが、研究委員会には1名以上の一般会員を含むものとする。
6. 研究委員会の成立:副常任委員長は、申請内容に基づき研究委員会の成立の可否を常任委員とともに検討し、その結果を代表者に伝える。
7. 研究委員会成立の説明と委員の追加募集:副常任委員長は、成立した研究委員会の代表者名、研究テーマ、研究期間、追加募集人員等を当該年度の総会で説明し、学会ニュース、学会ウェブサイトに掲載する。また、研究代表者は必要に応じて学会ニュース、学会ウェブサイト上で委員を追加募集する。なお、研究委員会は広く会員に開かれたものであることが望ましい。
8. 研究委員会の発足:成立をみた研究委員会は、代表者が中心となって活動を行う。
9. 研究委員会の年限:研究委員会の活動期間は2年とする。ただし、その後1年間の延長を可とする。その場合、研究委員会の代表者は研究の中間報告書と延長する理由書を、副常任委員長に提出しなければならない。
10. 研究費:研究費は、1研究委員会に対して年額10万円を上限とする。予算は研究委員会の成立と同時に執行ができる。
11. 会計報告:会計年度は、立正地理学会の会計年度に準じる。毎年度末に当該年度の収支報告書に領収書を添えて、副常任委員長に提出しなければならない。
12. 研究委員会の終了:研究委員会の終了時には、終了報告書を副常任委員長に提出しなければならない。
13. 成果の公表:研究委員会の活動中にあつては、立正地理学会研究発表大会において、中間報告を行うこと。なお、研究委員会終了後は、口頭発表のほか、『地域研究』にその成果を投稿するものとする。
14. 内規の改廃:本内規は常任委員長または副常任委員長が発議し、評議員会の議を経て行うものとする。

(常任委員長 島津 弘)

☆地理学教室だより☆

○立正大学地理学会卒業論文発表大会を終えて

2015年9月30日(水)、卒業論文発表大会実行委員会の第1回目のミーティングが行われ、各ゼミから35名が集まりました。企画・賞・広報の3つの係に分かれ、毎月のミーティングやそれ以外の時間も用いて、入念な打ち合わせと準備を進めていきました。

2016年2月8日(月)の午後にポスター展示、2月9日(火)に口頭発表とポスター発表が行われました。口頭発表では、各ゼミの代表である8名が、それぞれの研究テーマである地域と公園の関係性、自然地形の形成や分布、地域愛着度や土地利用変化について発表を行い、全学年の学生達が真剣に彼らの発表を聞いていました。ポスター発表では、2つの教室に合計35名の観光・産業・都市・交通・火山・河川などの多様なテーマの卒論要旨ポスターが並び、各ポスターの前では活発な発表や質疑応答が行われていました。また、ポスター会場で展示された各ゼミのゼミ紹介や資格紹介、海外フィールドワークなどの企画ポスターは、それぞれ興味深い内容となっていました。ポスター発表については、今年もポスター賞を設け1・2年生、先生方、一般の方々に投票を行っていただきました。今年は3名が同票2位となったので、最優秀ポスター賞1名、優秀ポスター賞3名が受賞しました。

今大会を開催・運営するまでの間、多くの先生方や先輩方、地球環境科学部事務室の方々、学生の皆さんにご協力を頂きました。4年生にとっては、最後の成果発表を行うことができ、3年生以下の学生にとっては、今後の自分の研究について参考とする成果を見ることができた大会となりました。来年以降の大会も、後輩たちをはじめとした多くの方々にとって有意義なものとなることを願っています。

(卒業論文発表大会実行委員会委員長 福田絵実子)

○2015年度卒業論文発表大会取材レポート

研究発表に関する広報委員のレポートです。

・山形県朝日町における着地型観光の展開 梁瀬琴美

ポスター発表として梁瀬琴美さんが研究された「山形県朝日町における着地型観光の展開」について紹介する。梁瀬さんは地域活性化につながる着地型観光に着目し、実際に取り組んでいる山形県朝日町を事例に民間団体・住民・行政のそれぞれの役割から着地型観光の展開を明らかにすることを研究目的とした。朝日町は地域開発として第一次総合発展計画から第五次総合発展計画を軸としているが第四次総合発展計画までは観光業に特化せず、NPO 法人朝日町エコミュージアムの基本理念「人間と自然の共存」を掲げ、まちづくりを行ってきた。その結果、朝日町の地域資源や観光施設は町の中心部から離れた場所に位置しているが観光客を呼び込むことで山村集落の過疎化、消滅を防ぐ役割を担っている。また、朝日町の観光発信情報元は行政・観光協会・NPO 法人の3つであるが情報発信方法や情報発信対象はそれぞれ異なっている。そのため、地域活性化という目的が同じでも意識のずれが生じているのが現状である。その問題を解決するためにも地域住民が着地型観光に自ら関わることで官民一体となる必要があると述べられていた。

口頭発表

通勤・買い物行動からみた地域愛着およびその地域的差異～横浜市内 3 地区を事例として～ 遠藤望

口頭発表からは遠藤望さんが研究された「通勤・買い物行動からみた地域愛着および地域的差異～横浜市内 3 地区を事例として～」を紹介する。遠藤さんは横浜市内で生まれ育ち横浜という地域に愛着を持っている。しかし一括りに横浜といえども、横浜市内には様々な地域があるため多様性に富んでいる。その多様性に魅力を感じ、地域との関わりすなわち日常生活(通勤・買い物)から地域の愛着の差異を明らかにすることを研究目的とした。調査から横浜市内の地域愛着は 3 パターンに分けることができる。中心部ほど買い物や通勤地は市内で完結しているため地域愛着が高い。次に北部は買い物や通勤地は東京都心に出向いており、地域愛着は低い。最後に南西部は買い物や通勤地は市内中心部や郊外であるため、地域愛着は前の 2 つに比べ中程である。その結果、地域愛着は日常生活における地域との関わり具合が必ずしも地域愛着につながるとは限らない。一方、地域の利便性は地域愛着と密接な関わりがあるといえる。すなわち生活環境の利便性が高ければ高いほど地域への愛着は高いことがわかったと述べられている。

(広報委員 松澤希望)

卒業論文発表大会の感想

今年度の卒業論文発表大会は昨年度に引き続き、多くの参加者が見られた。私自身は二度目の参加となったが、今年も先輩方の発表をみることができ、多くのことを学ぶことができた。また、論文完成に至るまでの調査方法だけでなく、苦労したことについてもお話をしてくださり、自分が卒業論文に取り組む際のアドバイスを頂くことができた。今回得たことを生かし、これからの学びに役立てたい。

(広報委員 飯山和也)

○今年度卒業予定の立正大学地理学科 4 年生の学生会員の皆様へ

この 3 月で卒業される学部 4 年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、卒業証書授与式で配布する継続届を記入の上、『地域研究』『学会ニュース』に同封する払込取扱票にて 5 月末日までに会費をご納入下さい。他大学や大学院な

どに進学される方は学生会員(年会費 2,500 円)、それ以外の方は一般会員(年会費 4,000 円)となります。

○会費納入のお願い

2015 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

※今年度をもって退会を希望される方は、3月末日までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。

(庶務会計委員会)

編集後記

寒さも徐々に緩み、来月から新年度が始まります。立正大学地理学教室創立 90 周年記念公演会ではお忙しいなか多くの会員の皆様にご参加頂きまして誠にありがとうございました。広報委員会としましては、これからも企画などを実施し、紙面充実に一層勤めてまいります。会員の皆様にはインタビューや原稿をお願いすることがあると思いますが、その際にはご協力よろしくお願ひします。

(広報委員 飯山和也)

立正地理学会ニュース No.116

2016年3月15日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453